

## 小袋谷周辺あれこれ

### 亀井の石切り場跡

小袋谷の東隣、台字亀井で平成十三年四月から十二月まで亀井砦跡の名称で発掘調査が行なわれました。これは、宅地造成工事に伴う調査で広大な遺跡が発見された為です。一万二千五百㎡にわたる調査面積で市内で最大規模の発掘となりました。その結果、弥生時代中期の竪穴住居あと二軒と七世紀頃の横穴墓八基、中世以降の鎌倉石の石切り場跡が見つかりました。鎌倉石は日に強いが霜や風化に弱い性質で、十三世紀末から建物の基礎、石垣、階段、井戸などに使われてきたようです。

石切り場跡は東西に伸びる丘陵の頂上から南側斜面にかけて長さ二百m、高さ六mにわたり連続して見つかり、石材を切り出した跡は六百四カ所ありました。少なくとも十五世紀以前から既に石切りが行なわれ近代まで採掘されていた可能性があるそうです。明治初め小袋谷にも石工がいた記録があります。

七ヶ月間の調査において、石材の運び出すルートなど明らかにならなかった点も多々あるが、非常に貴重な遺跡であると報告されています。しかし残念なことに記録の保存だけで、宅地造成工事により遺跡は破壊され、今は閑静な住宅地になっています。